

とこぶし太平洋中・南部系群

評価対象種：フクトコブシ（伊豆諸島海域）



令和7年4月

資源の水準と動向「低位・減少」

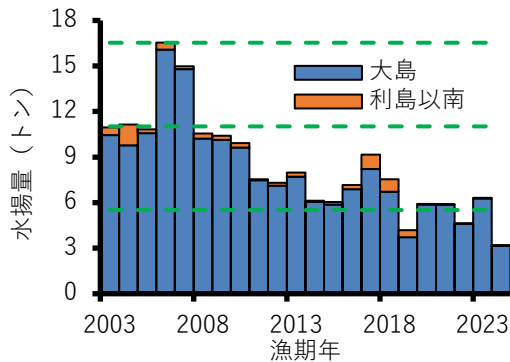


図1 水揚量の推移

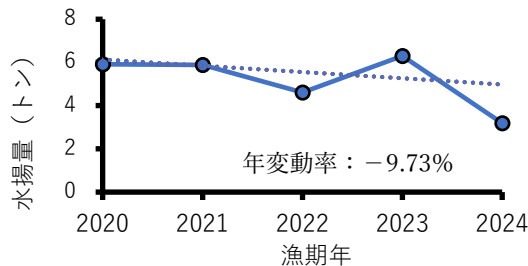


図2 水揚量の年変動率

2003年以降の伊豆諸島海域におけるフクトコブシの水揚量は、2006年に最大値の16.5トンとなったが、その後は減少傾向を示し、2019年は4.2トンとなった。なお、2004年および2019年以外は、各漁期年の水揚量の9割以上を大島での水揚げが占めている（図1）。

本資源評価票での資源量指標値は水揚量とした。2024年における資源の水準は、水揚量が最大値となった2006年の16.5トンの1/3未満である3.2トンのため「低位」とした（図1）。

資源の動向は、直近5年間の水揚量から算出した年変動率が-9.73%であり、年間5%以上の減少が見られたため「減少」とした（図2）。

生態学的特性

- 分布・回遊：九州南部および伊豆諸島の潮間帯付近に生息する¹⁾。
- 年齢・成長：孵化後、50時間程度の浮遊生活を送った後に底生生活に移行する。平均殻長は孵化後1年で3.7 cm、2年で6.0 cm、3年で7.1 cm程度になり、伊豆諸島では南方の島で成長がより早くなる²⁾。
- 成熟・産卵：産卵期は8～10月で盛期は9月である³⁾。
- 被捕食関係：テングサなどの紅藻やシマオオギなど褐藻を摂食する⁴⁾。

東京都におけるフクトコブシ漁

- 漁業：伊豆諸島の各地区で第1種共同漁業権の対象種となっており、重要な磯根資源となっている。
- 漁法：潜水漁業により漁獲される。
- 管理：東京都漁業調整規則において採捕禁止期間の設定（9～10月）や大きさの制限（殻長4.5 cm以下）が設定されている。また、第一種共同漁業権行使規則において、漁場管理委員会により口開け・口止め期間を決定し操業期間を制御する他、漁具・漁法の制限や体長制限、栽培区の設定等が行われている。また、東京都栽培漁業センターにて人工種苗の生産及び配付が行われ各島で種苗放流されている。

- 1) 奥谷喬司. 2000. ミミガイ科. 奥谷喬司 (編). 日本近海産貝類図鑑. 東海大出版, 東京, pp.40-43
- 2) 三木誠・糸洸長敬. 1984. フクトコブシ漁場造成に関する研究—生態および環境調査とその造成計画について—. 水産土木, 22 (1) : 35-45
- 3) [西村和久. 1975. 伊豆諸島における貝類増殖に関する研究. 東京都水産試験場調査研究要報, \(120\) : 7-26](#)
- 4) 西村和久・伊藤茂. 1969. フクトコブシの摂餌について. 水産増殖, 17 (1) : 27-32